

家族で滝に行った日のこと

一宮中・2 坂田 蘭香

八月上旬のある休日。午前中、宿題をやることにまったく気が進まず、少し息詰まっていた。そんなとき、父が「新城の滝に行く？」

と言った。気分転換になるし、滝ならきっと涼しいだろうと思いい、行くことにした。とてもきれいなだろうと期待もしていた。

車で向かっている間は山道ばかりだったため、そこまで大きく景色は変わらなかった。しかも、道がぐねぐねして、車に酔いやすい私にとつては少し苦しい時間だった。

着いてからも滝までは歩かなくてはいけなかった。山なのだからどれだけ涼しいだろうと思っていたが、まったく予想外なことにとっても蒸し暑かった。長ズボンで来てしまったことに少し後悔したほどだった。

歩いている途中には、いろいろな発見があった。まず、とにかくたくさんのヒグラシが鳴いていた。木に囲まれている道だったため、四方八方からいくつも鳴き声が聞こえ、とてもにぎやかだった。そして、道の左手には、川が流れていた。ごつごつとしていてコケが生えている大きな岩の間を、きれいな水が流れていて、ところどころ池のように水が溜まっている場所もあった。その川で浮き輪を浮かべていたり、水をかけ合ったりして遊んでいる人も意外とたくさんいた。アユのような小さな魚もたくさん川で泳いでいた。きつと水がきれいなのだろう。歩いていくなかで不自然にぼつんと一つ、小さな切り株が道端にあった。近づいてみると、コケだらけで緑ばかりの中に二輪ほどだけ、小さな薄紫色の花が咲いていた。普段あまり見ない花だったため、もしかしたら山にしか咲かない花なのか

と思いい、二枚だけ写真を撮って先へ進んだ。

十分ほど歩いたとき、前を歩いていた父と妹の姿が消えた。どこへいったかと思ったら、少し開けた場所で、川に近づいていた。でも、すぐに歩道へ戻って先へ進んで行ったので、私は川を見ることなく先を急いだ。

どんどん歩いて行くうちに、思わず足を止めてしまう景色を見た。自分の十数倍はある長さで細めの倒木が両サイドからそれぞれ道を挟んで反対側の木に引っかけたり、大きく「バツ」の形を作っていた。今にも倒れてきそうで、少し危なっかしい様子だったが、すごくきれいだと感じた。

歩き始めて十五分ほどで、ようやく「阿寺の七滝」に着いた。それほど時間はかからなかったが、暑さのせいかわ、少し疲れていた。滝はとも大きいというわけではなかったが、上の方を見ると何段にもなっていて、とても面白い形をしていた。近くにあった看板を見てみると、滝についていろいろ書いてあった。「阿寺の七滝」は、滝が七段になっているから「七滝」という名前が付いたそうだ。そして、この滝は「日本の滝百選」のうちの一つで、「国指定名勝天然記念物」ということも書いてあった。少し気になり、調べてみると、名古屋城の二之丸御殿の庭園も、その国指定の天然記念物ということがわかった。つまり、この滝は国に認められるほど価値のある滝ということだろう。そう考えるとすごい滝なんだと感じた。

滝の周りにも面白い発見があった。水辺では小さなサワガニを見つけた。体は黒いけれど、手足は鮮やかな朱色で、平べったい型内をしていた。次に目に入ったのは階段だった。どうやらもう少し上で滝を見ることができるとのことだったから、上ることにした。すると、階段の途中に不思議な形の木の本の根があり、その横には頭上注意の看板があった。ここを通るのかと少し驚いた。ちょうど一人がぎりぎり通ることができるとのアーチ状になっていて、とても通りにくかったが、面白くも感じた。

一段上から見る滝は、下で見たときより水が近く、大きな淵になっていて、上から流れてくる水が溜まっていた。この淵は、上の方に行くほど小さくなっていった。しかし、七段全部を見ることはできなかった。それでもきれいで涼しげな景色だったので、少し狭い足場から自分が滝へ落ちないように、慎重に写真を撮った。満足するまで滝を見ることができたので、下りることにした。上りを通った木の根のアーチを通り抜け、少し水で滑りやすくなっていたるつるした石の階段をゆつくりと下りた。

帰り道は行きとは少し違った雰囲気を感じた。まず、行きは気がつかなかった看板に目を通した。私たちが歩いていた道は「東海自然歩道」の一部だったそう。東京から大阪までの美しい自然や文化財を結んだ道のことである。とても長い道だ。ほかの県のどんな場所と繋がっているのか少し気になった。

道のサイドの傾斜になっているところにも、雪崩れてきそうな倒木があることに気がついた。なぜ雪崩れないのか不思議に思うくらいびびったりと止まっていた。その斜面や地面には、たくさんシダが生えていた。そして、家に帰る前にやっぱり触ってみたいと思った川の水に手をつけると、とても冷たくてかなり驚いた。山の入り口に着いて、喉が渴いたので、飲み物を買った。すると、そこに突然大きなアブが飛んできて、刺されるかもしれないとひやひやしながら車に戻った。

家に帰ったら、疲れてしまつて結局宿題を進める気にはなれなかった。滝は暑かったし、もう今日は何もしたくないとまで思った。でも、家族みんなで少しだけ外出できたことは、私にとってとても良い気分転換になった。